



# Closure report 2024

## 終了報告書

ウガンダ共和国  
キルヤンガ地域開発プログラム  
UGA-192491 (2007年～2024年)

コンゴ民主共和国

ウガンダ共和国

キルヤンガ地域  
開発プログラム

カンバラ

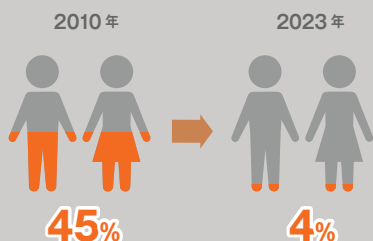
ケニア



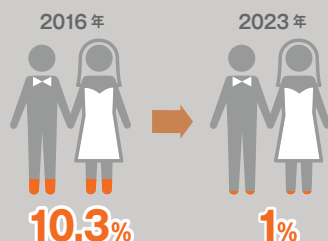
## ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

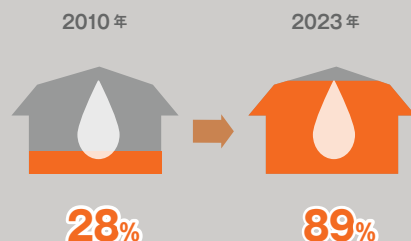
### 小学校の退学率



### 18歳以下で結婚している子ども



### 安全な水にアクセスできる世帯





## Education



### 教育

小学校の退学率が大きく減少

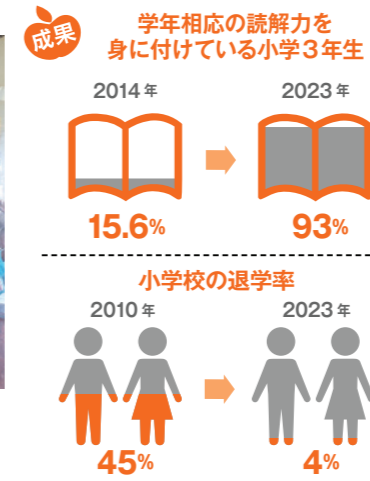
地域の学校では慢性的に教室が不足していたため、子どもたちは老朽化が進んだ校舎で学習し、屋外で授業を受けることもありました。また、貧困や保護者の教育に対する理解不足もあり、基礎的な学力を身につける前に小学校を退学する子どもは、半数近くに上っていました。ワールド・ビジョンは小学校に教室やトイレを建設したほか、教科書や本などを提供し、子どもたちが安心して学べる環境を整備しました。一方、保護者に対しては教育の大切さを訴える啓発活動を実施し、保護者を主体とした読書センターの設置などを進めました。こうした活動の結果、小学校の退学率の減少や読み書きの能力の向上が見られ、多くの子どもが小学校の卒業試験に合格できるようになりました。



支援前 老朽化した校舎



支援後 支援で建設された、新しい教室で学ぶ子どもたち



## マネージャーよりごあいさつ



キルヤンガ地域開発  
プログラム マネージャー  
ジョセフ・アダラ・ニヨンゲサ

活動開始当初、キルヤンガ地域は、貧困、劣悪な衛生環境、安全な水の欠如など、様々な課題を抱えていました。しかし17年の支援活動を経て、これらの問題は大幅に改善され、多くの子どもたちが実りある人生を歩めるようになりました。例えば縫製の職業教育を受けて、後に自分のビジネスを立ち上げた青年、整備された小学校で読み書きを学び、中学に進学した14歳の女の子、農業や貯蓄について学び、6人の子どもの学費を支払えるようになった父親など、この報告書には書ききれないほどの素晴らしいストーリーがたくさんあります。地域社会が発展し、人々の笑顔が生まれたのは、皆さまの寛大で優しい心のおかげです。これまでの温かいご支援に心から感謝します。

## Child Protection



### 子どもの保護

地域ぐるみで子どもを守り育てる基盤を醸成

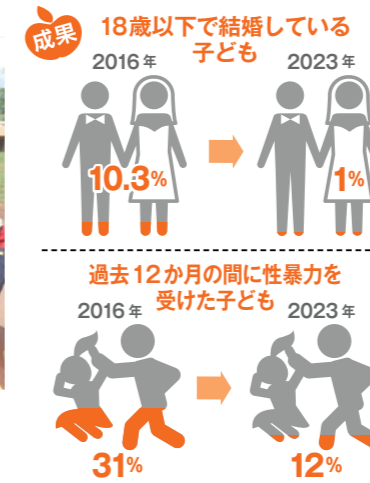
家庭内暴力、性暴力、早婚、児童労働など、地域の子どもたちは様々な搾取や暴力に晒されていました。特に障害を持つ子や女の子に対しては、文化的習慣に基づく差別が根強くありました。ワールド・ビジョンはすべての子どもが安全に、安心して過ごせるよう、保護者や教員、地域のおとなに対して、子どもの権利と保護に関する研修を実施しました。一方子どもたちにも、学校の課外活動などを通じて、自らの権利を知り、積極的に地域の課題解決に関わることを促しました。このように様々な啓発活動や研修を行った結果、今では地域リーダーや住民が中心となって、子どもへの差別や暴力をなくすための活動が進められ、子どもを地域ぐるみで守り育てるための基盤ができています。



支援前 家の手伝いやきょうだいの世話のため、学校に通えない子どもが多かったです。



支援後 安全な遊び場で、楽しく遊ぶ子どもたち



## 地域代表者からのごあいさつ



カガディ県女性評議員  
アバース・ピエンダムラ氏

17年にわたってキルヤンガ地域を支援し、また見守ってください、ありがとうございます。ご寄付を通じて支えてくださったおかげで、私たちの地域が抱えていた貧困や衛生環境といった様々な課題が改善され、人々の生活に大きな変化をもたらされました。これから私たちは、ご支援によって実現した素晴らしい活動の成果を引き継ぎ、今後は自分たちの力で発展を遂げていくことをお約束します。そして今後も子どもたちが学校に通って教育を受け、健やかに成長し、希望に満ちた人生を送れるよう、支えていきます。私たちとともに歩んでくださったチャイルド・スポンサーの皆さまに、地域を代表して心より感謝申し上げます。

## Livelihood



### 生計向上

農業研修を通じて収入が向上

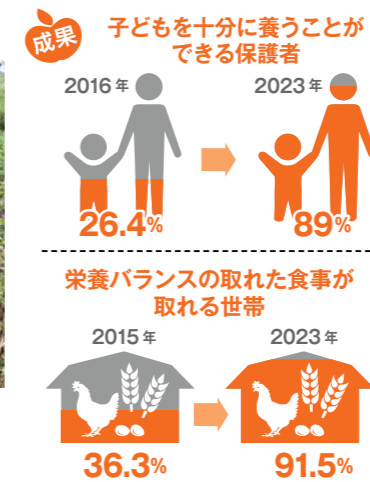
住民の大多数が農業に従事していますが、収穫が少ないため8割以上の世帯が極度の貧困状態にあり、多くの子どもが栄養不良に陥っていました。そこで、ワールド・ビジョンは収穫量の増加を目指し、自然災害に強く、栄養価の高い作物の栽培などの研修を行いました。活動の結果、人々は生活に十分な食料を確保し、さらに余剰分を販売して収入を得られるようになりました。また、住民が毎月少額のお金を持ち寄って貯金し、そこから借入れができる貯蓄グループを設立したことで、新たなビジネスを始めたり、農機具を購入したりする際の資金を得られるようになり、世帯収入の向上に繋がっています。生活の質が向上した結果、子どもたちの栄養状態も改善されました。



支援前 貧困と子どもの栄養不良が深刻な問題でした



支援後 各世帯で多様な作物を栽培できるようになり、収入も向上しました



## Health & Water



### 保健・水衛生

安全な水と啓発活動を通じて人々の健康を守る

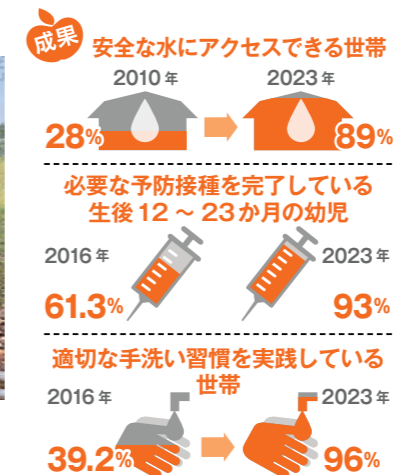
地域では野外排泄が行われていたほか、家畜と共用する水源から飲み水を得ていたため、人々は汚染された水に起因する下痢などの症状に苦しんでいました。医療施設の数や設備も不足し、適切な治療を受けることができないため、乳幼児の死亡率も非常に高い状態でした。ワールド・ビジョンは住民が安全な水を利用できるよう、65の村で井戸や水道を整備し、各世帯にはトイレや手洗い場の設置を進めました。水設備を適切に維持・管理するために、研修を受けた住民で構成する水管理委員会を設置したほか、保健スタッフによる正しい手洗い方法や子どもの予防接種などに関する啓発活動を実施しました。人々の健康や衛生への意識が高まり、子どもの健やかな成長につながっています。



支援前 沼地から不衛生な水をくむ女性



支援後 学校に設置された水道





# 皆さまとともに歩んだ17年間の支援と成果

準備期  
2007年度  
▼  
2009年度

- ◎ 自治体や住民組織との関係構築および研修
- ◎ 支援地域の状況やニーズの調査
- ◎ 既存の施設や資源の調査
- ◎ 自治体や地域住民との話し合いを通じた事業実施計画の立案

第1期  
2010年度  
▼  
2014年度

- ◎ チャイルド・スポンサーシップの基盤となる地域組織の形成と研修
- ◎ 小学校の校舎とトイレの建設、机や教材の提供
- ◎ 18の小学校の教員を対象とした、教授法に関する研修
- ◎ 保護者への教育の重要性に関する啓発活動
- ◎ 給水施設の整備と貯水槽の設置
- ◎ 給水設備の管理・運営に関する研修
- ◎ 保健スタッフによる、各家庭への手洗い・衛生の啓発活動

第2期  
2015年度  
▼  
2020年度

- ◎ 地域ボランティアが運営する読書センターの設立
- ◎ 新型コロナウイルス感染症流行時の、自宅学習用教材の提供と地域での学習支援
- ◎ 子どもを尊重した子育てに関する研修
- ◎ 助産師や保健スタッフによる訪問支援
- ◎ 生産性向上のための農業・畜産技術、食品加工などに関する研修
- ◎ 家庭菜園の研修
- ◎ 320の貯蓄グループの形成と収入向上研修

第3期  
2021年度  
▼  
2024年度

- ◎ 識字教育を中心とした教員の能力強化の継続
- ◎ 障害を持つ子どもへの補助器具の提供
- ◎ 環境に配慮した持続的な農業技術の実践支援
- ◎ 24の地区で防災計画を改定
- ◎ 課外活動を通じた子どものライフ・スキル(※)の強化

※ライフ・スキル：日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力



支援地域の一般的な住居



家のそばにできた新しい井戸で水をくむ家族



家庭を訪問し、子どもの予防接種をする保健スタッフ



障害を持つ子どもたちに、車いすなどの補助器具を提供しました

## 支援を受けたチャイルドのストーリー

### 「縫製の仕事を通じて、自分と同じ境遇の女の子たちを支えたい」

ジェスカさん  
(19歳)

ジェスカさんは、母親と5人のきょうだいとともに暮らしています。「母は私たちが大切に育ててくれましたが、とても貧しく、食事は日に一度、夜におかゆとキャッサバ芋を一切れだけ、ということも珍しくありませんでした」

ジェスカさんは、4歳のときにチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、学校と週末の読書クラブに通って14歳で小学校を卒業することができました。明るい未来が待っているかと思われましたが、一家の生活は苦しく、ジェスカさんは中学校への進学を断念せざるを得ませんでした。

「絶望して、人生を諦めていた」というジェスカさんを支えたのは、ワールド・ビジョンのスタッフに勧められて参加した縫製の職業訓練でした。「訓練の様子を見て、これだ!と感じたんです。自分もミシンを使いこなして、素敵な服を作りたいと強く思いました」。その後彼女は職業訓練を修了し、ミシンを手に入れて仕立て屋のビジネスをスタートさせました。

「チャイルド・スポンサーの皆さんが私たちに注いでくれた愛情とご支援に、心から感謝しています」と語るジェスカさん。彼女はいま、地域に縫製を学ぶ学校を開校し、自分と同じように学校に通うことのできない少女たちを、縫製の仕事を通して支援するという大きな夢に向かって歩んでいます。

